

「日々の理科」(第2327号) 2020, 11, 25

「屋根に根付いた落葉松(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

駐車場の屋根に積もった、カラマツの落ち葉の堆積に生えた、小さな落葉松の芽。この屋根には、多い時は30cm以上の雪が積もって、傾斜に沿って流れ落ちることもある。こんな小さな落葉松の根は、たぶん雪と一緒に落下してしまうだろう。私は「救助」することにした。



救助は意外にも大変だった。波板の溝に積もったカラマツの葉は非常に固く、簡単には屋根から離れようとしなかった。波板と落ち葉が一体化しているような感じだった。屋根に梯子をかけても、手が届かない場所だったので、「孫の手」を持ってきて手前に引き寄せ、やっと捕獲できた。



波板から取り出したカラマツの落ち葉は、地層のように重なっていた。下のほうは粉碎されて、完全に土

のようになっている。何年間もの落ち葉が薄い「土壌層」を形成していたのである。



形成された土壌の厚さは、せいぜい2cm程度だ。しかし落葉松の芽(幼木)は、そんな場所に根を下ろし、小さいながらも幹から葉まで出していた。根もびっしりと横に伸びていた。



ノルウェーでは、あえて屋根の上の植生を温存する習慣がある。こうすると、雨漏りのせず冬も温かいらしい。ほとんどは草本(ヤナギランなど)だったが、小さな樹木も生えていた。(ノルウェー・ノードネス)



私はカラマツの幼木を、小さな植木鉢に植えておいた。果たして春に新芽を出すだろうか？